

日が暮れるのが少しずつ早くなり、めっきり秋らしくなってきました。
現在会員登録数 1,820 人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は 11 月 20
日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 62

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 第15回国際グリム賞 贈呈式・記念講演会 参加者募集

講 師：第15回国際グリム賞受賞者

ペリー・ノーデルマン 博士（カナダ・ウィニペグ大学名誉教授）

演 題：「わが著『絵本論』を超えて—絵本と絵本研究の過去・現在・未来」

通 訳：松下宏子さん（関西大学ほか非常勤講師）

日 時：平成27年11月21日（土）午後1時30分～4時30分

会 場：大阪国際交流センター（大阪市天王寺区上本町8）

定 員：150人（申込先着順）

参加費：無 料

主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団／一般財団法人 金蘭会／

大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

お申込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/01_grimm/index.html#15shiki

● 「第32回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代
などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募
集しています。締め切りは10月31日（土）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第29号の原稿を募集し
ています。詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『赤の他人だったら、どんなによかったか。』 吉野万理子 講談社

2015年6月 対象年齢：中学生以上

あらすじ：隣の市で連続殺人未遂事件が起こり、中学2年生の風雅は野次馬根性で現場を見に行き、犯人を目撃するが、犯人の娘聡子が風雅のクラスに転校してくる。前半は風雅の視点から、後半は聡子の視点から描いた作品。

Y：殺人未遂を犯した親を持つ子どもが主人公のヤングアダルト小説はとても新鮮に感じました。

T：思い切った設定。そして、同級生になった風雅の視点から描いているところもユニークです。風雅の章も本人の章も一人称語りではなく、三人称語りにしたことで、物語の視野が広がって背景が見える描き方がいいなと思います。

Y：風雅を先にすることで、多くの読者は共感しながら読み始めることができます。

T：最初は野次馬根性で事件を見に行ったら風雅が、聡子を知ることで、聡子を一人の人間として受け止め、いじめから守りたいと思う過程が自然に描かれていますね。

Y：私たちは日々起こる事件をニュースとして無責任に消費していますが、それでいいのと立ち止まらせてくれるように思いました。

T：この作品の舞台が、何となく周りに知り合いや血縁がいるという大都市近郊の、いわゆる都会でも田舎でもない中途半端な場所として設定されているのもとても納得できました。

Y：この作品では、風雅といこのキッキー（女子）は聡子と遠い親戚だということを知って聡子に関わり始めます。

T：血縁だから関わったという設定がよかったのかどうかは考えどころです。

Y：聡子の問題だけではなく、同じクラスの淳史のいじめ問題も描かれ、それがパラレルに考えられている点、風雅やキッキーがいじめを解決するのに正義をふりかざすのではなく、自分たちのできる方法で解決しようとする点などにとってもリアリティを感じました。

T：吉野さんはこれまでも『時速47メートルの疾走』（講談社）など、思春期のいじめの問題を描いているけど、この作品は特にユニークだと思います。

Y：おもしろかったけれど、聡子や聡子の母の葛藤や苦しみ、父の犯罪の描かれ方に物足りなさを感じたり、マスコミや被害者が出てこなかったこと

や風雅がかっこよすぎることなどに不自然さを感じたりしたところもありました。

T：これは、こんなことが起こったらという架空の設定で想像してみる、シミュレーションの物語だから、すべてがリアルでなくていいんだと思いますよ。

*本コラムの新シリーズの第2回です。Yasukoが毎回、児童文学者をゲストに迎え、新しい本について語ります。今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。Tは隔月登場予定です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第2回「なめとこ山の熊」(1)

熊の命、小十郎の命

くとかくなめとこ山の熊の胆は名高いものになっている。腹の痛いにも利けば傷もなおる。鉛の湯の入口になめとこ山の熊の胆ありといふ昔からの看板もかかっている>

〈マタギ〉と呼ばれる、狩猟を生業とする人たちがいます。彼らは山中に簡易な小屋を作り、寝泊まりしながら熊や鹿などを追い込んで仕留めました。獲物の代表格が、熊です。古来より、熊の毛皮や胆（い）は貴重品で、〈胆一匁、金一匁、米一俵〉と言われ、胆一匁とは500円硬貨くらいの大きさで、大正4年当時、3円30銭で取引された記録があるそうです。小十郎が荒物屋に毛皮2枚を2円で買い叩かれるのと比べると格段に高く、熊の胆は彼らの生活を支えるものでした。

さて、作品はマタギを彷彿させる淵沢小十郎が「ごちゃごちゃいた」熊をかたっぱしから獲った話です。

小十郎が深い山や谷を歩き、猟師をしているのは、〈畑はなし木はお上のものにきまったし里へ出ても誰も相手にし〉ないから。自ら倒した熊に近寄る小十郎は、こう語りかけます。〈熊。おれはてまえを憎くて殺したのでねえんだぞ。おれも商売ならてめえも射たなけあならねえ。てめえも熊に生れたが因果ならおれもこんな商売が因果だ。やい。この次には熊なんぞに生れなよ〉。生きていくために熊を殺さざるを得ないが、それでも熊を愛する小十郎と、小十郎に殺されてはいても決して小十郎を憎むことがないという熊の関係。両者のやりとりが印象的です。

ある年の春早く、小十郎は淡い月光のなかで母子の熊が二疋、遠くを眺めているのに遭遇します。谷の向こうに白く光るあざみを、雪だと言い張る子熊の甘えるような声が届きます。あざみは熊の食料であり、冬眠明けのこの時期、雪かあざみかは大変な関心事なのです。あざみがないと生きていけない熊と、熊の毛皮と胆を得ないと生きていけない小十郎。お互いの境遇がここで重なります。

結末、小十郎は熊に殺されます。熊を追う暮らしはたえず死と隣り合わせである一方、熊は彼らの生をつなぐものでもあります。熊を神からの授かり物

ととらえ、畏敬の念を抱いてきたところに、自然に生かされて生活してきた狩猟民の歴史があり、小十郎の物語もまた、その一断面を伝えているといえます。（ペ吉）

（本文の引用は、新潮文庫『注文の多い料理店』に拠りました。）

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 61

その9 おはなしを語る（4）語るポイント1

同じお話でも、語り手によって、おもしろく感じられたり、退屈に感じられたりすることがあります。もちろん、語り手の数だけ、おはなしは存在し、それぞれの人の持ち味はあるのですが、惹きつけられる語りとそうでない語りがあるのも事実です。その差はどこから来るのでしょうか。今回から数回にわたって、日ごろ活動で、お互いのおはなしについてどんな助言をし合っているかを思い出して、いくつかのポイントを紹介したいと思います。

細かい点に入る前に、最も重要なことは、語り手が選んだおはなしをいかに解釈し、何を聞き手と共有したいと思っているかということがあります。選んだおはなしの何が好きなのか、どうして好きなのかを考えることによって、おはなしの何を大切に語るのかということが自ずとわかってきます。そのことがなく語ってしまうと、全体が一つのまとまりに感じられず、覚えたことを声に出しているだけのように聞こえてしまいます。

まとまりという意味では、全体の構成を意識することも重要です。おはなしを、始→中→終、または起承転結に分けてみることによって、筋がどう展開しているかを意識することができます。すると、その分け目で少し間をとったり、それぞれのまとまりによって語りのスピードや語り方を微妙に変えたりすることができます。また、クライマックスがわかれば、クライマックスへの助走部分とクライマックスで、速さやリズム、声の強弱などを変化させることができます。

構成についてグループ内で話し合ってみると、区切る部分が違うことがよくあります。それは、おはなしの解釈の差とつながります。その意味で、同じおはなしをどのように分けたか、なぜ、そう分けたかを話し合うことは、それぞれの解釈を確かめ、全体を把握しておはなしを語る上で、とても役に立ちます。

* 次号は「その9 おはなしを語る（4）語るポイント2」の予定です。
質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。（Y）

《4》 行って来ました！

兵庫県立美術館で11月23日まで開催されている「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム展」に行ってきました。

この展覧会は、日本のマンガやアニメに大きな足跡を残した手塚治虫が亡く

なった1989年以降のマンガ、アニメ、ゲームの約60作品が、7つのセクションに分けて展示されています。入口を入ると大きな年表があり、年ごとに社会の動きとともにマンガ、アニメ、ゲームの主な作品などが書かれていて、四半世紀の流れを概観することができます。

「マンガ」、「アニメ」、「ゲーム」の各セクションの初めには、それぞれ、歴史や特徴が解説されたパネルがあり、時代とともに新しいジャンルが出てきたり、技術が進化したり、メディアミックスなど、それぞれのジャンルが関連性をもっていたりすることがわかります。

「マンガ」のセクションには、東日本大震災以降を扱った『なのはな』や、2014年に手塚治虫文化賞を受賞した『3月のライオン』などの作品の原画が展示されています。作品が手にとって読めるコーナーもありました。

アニメやゲームの作品の展示では、絵コンテやセル画、ゲームの制作資料などとともに、いたるところにディスプレイで映像が流されていて目を引きまします。知っている作品はあまりありませんでしたが、同人サークルや投稿動画サイトなどインターネット発の作品など、アマチュアが作り手になって成功しているものが時代とともに出てきていることに興味を覚えました。

また、家庭用ゲーム機「ファミコン」や「PlayStation」が初期のものから現在のものまでずらっと展示されていますし、ゲームソフトも古いものから最近発売されたものまで、自由に遊べるセクションもあります。当時を懐かしむ年配の方も、子どもも思い思いに楽しんでいる様子でした。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 大阪府立中央図書館 国際児童文学館 展示とイベント

「酒井七馬とその時代」

関西マンガ界の伝説とされ、マンガ家・アニメーター・街頭紙芝居作家と様々な顔を持つ酒井七馬。その生誕110年を記念し、資料展示と街頭紙芝居実演・講演会を開催します。

◇ 資料展示

期 間：開催中～12月20日（日） 休館日あり

会 場：大阪府立中央図書館 1階 （東大阪市荒本）

共 催：京都国際マンガミュージアム／京都精華大学国際マンガ研究センター

協 力：中野晴行・渡辺泰

◇ 街頭紙芝居実演

演 目：『鞍馬小天狗』ほか

出 演：塩崎おとぎ紙芝居博物館 紙芝居師

日 時：平成27年12月12日（土） 午後1時～1時45分

会 場：大阪府立中央図書館 2階多目的室 （東大阪市荒本）

参加費：無料 申込み：不要

◇ 講演会

演 題：レジェンド 酒井七馬と昭和の大阪まんが

講 師：中野晴行（京都精華大学 客員教授）

日 時：平成27年12月12日（土） 午後2時～4時

会 場：大阪府立中央図書館 2階大会議室 (東大阪市荒本)
参加費：無料 申込み：事前申込要 (11月1日受付開始)
共 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
協 力：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館

● 人形劇「貧乏神と福の神」の公演

日 時：平成27年10月31日(土) 午後2時～2時40分
会 場：大阪府立中央図書館 2階大会議室 (東大阪市荒本)
出 演：人形劇サークル「ぱれっと」(大阪国際児童文学振興財団所属)
参加費：無料 申込み：不要

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ 【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『赤の他人だったら、どんなによかったか。』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.62プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は11月10日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

市役所から届いたアンケート。5分前のことが思い出せますか？一人で入浴できますか？といった質問が長々続き、滅入ったところに追い討ち、寝込んだとき看病してくれる人は何人いますか？ 淡い期待で1人を○で囲む。心配事や愚痴を聞いてくれる人は何人いますか？ ちゃんとあります選択肢、0人…。
ほとほと厳しい現実と向き合う「健康長寿推進のため」の138問に、真面目に答えてダメージキツイ…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
